

社会の課題の解決に向け考察、構想する

現代社会に見られる課題について資料を基に多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて広い視野からの構想をする学習を行うことができるよう、「チャレンジ公民」ページを設けています。各単元で習得した知識や見方・考え方を生かし、他者との学び合いを通じて主体的・対話的で深い学びを実現できるように工夫しています。

1 学習成果を生かす課題設定

現代社会、憲法、政治、経済、国際社会の各単元で、学習した知識を生かすことのできる課題を設定しています。

注目の！ 実際の意思決定の場面を想定

架空の政党による政策案を示しており、実際の選挙のように政策案を比較検討し、選択・判断を行う構成にしています。

2 多面的・多角的な思考を促す教材

他者と協働的に学習を進める場面を設けるなどし、多面的・多角的に課題を考えることができるようにしています。

社会的な課題の解決を考える特設ページ



地球温暖化に対する政策について考えよう

地球温暖化問題に対して、3つの政党が政策を発表しました。国際社会のなかで、日本はどのような役割を担っていくべきか、そのためにはどの政党を支持すべきかを考えましょう。

1 各党の政策



A党 日本の1人あたりの二酸化炭素排出量は他国と比べて高い。日本は先進国として、地球環境問題に対して大きな責任をもちパリ協定に基づく目標を達成する義務がある。目標達成のためには、再生可能エネルギーの利用を推進する。国民の生活の質を維持するため、原発はただちに廃止せず、段階的に廃止する。



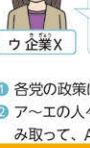
B党 国民の生活を維持して、経済に悪影響をあたえないようにするには、安定して発電できる、化石燃料による発電は必要である。パリ協定の目標の達成のために、再生可能エネルギーの推進、化石燃料による発電技術の向上、安全が確認された原発の稼働、途上国への環境保護の技術支援を行う。



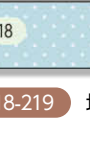
C党 気温上昇を1.5度におさえても、世界各地に異常気象が頻発し、2100年には海面の上昇は最大77cmに達する予想がある。もはや猶予はなく、化石燃料は使わず、すみやかに再生可能エネルギーに変えるべきだ。また、一度事故が起きると、大きな影響をあたえる原発も全廃すべきである。



7. NGO 世界では、日本は石炭火力発電が多いことが批判されている。



I. 学者 日本のエネルギー自給率は低いので、安定供給が必要である。

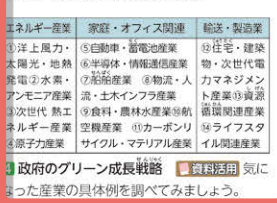


U. 企業X 再生可能エネルギー事業は成長分野なので、その開発に力を入れて利益に結び付けたい。



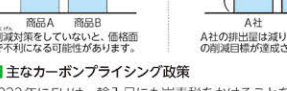
E. 企業Y 電気料金の値上げは、企業の業績と日本経済に悪影響がある。

① 各党の政策について、関係する資料は何でしょうか。
② ア～エの人の意見は、どの政策の支持につながるか、不支持につながるかを読み取って、A～C党の空欄に記号を書き入れましょう。



●カーボンニュートラルについて
2050年のカーボンニュートラル達成のためには、炭素税や排出量取引に関する政策も必要なので、それへの各党の政策を調べました。

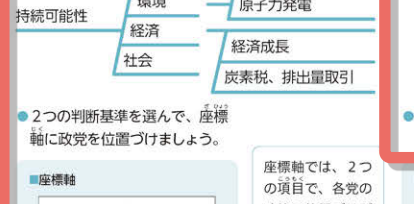
A党：導入をできるだけ早く進めるべき。
B党：経済成長をばねにしながら計画的に取り組む。
C党：これらの政策はすぐには実現するべき。低所得者などは、負担軽減策を行う。



●主なカーボンプライシング政策
2022年にEUは、輸入品にも炭素税をかけることを決めました。

2 判断基準をさぐる

●3つの各党の政策を比較するためには、自分がどのような判断基準を重視するかを検討しましょう。



●2つの判断基準を選んで、座標軸に政策を位置づけましょう。
●レーダーチャート (例) の図

自分の意見と完全に一致する政策をもつ政党は必ず存在するとは限りません。実際の選挙でも、自分の意見に「比較的近い」考えをもつ政党を選択しましょう。

●政党の政策に関する自分の判断基準を次のレーダーチャートに位置づけましょう。

3 支持する政党を表明しよう

私は 党の政策を支持します。
なぜなら、 だからです。

●クラスで多く重視された判断基準をまとめて、グループで優先する判断基準について話し合いましょう。



思考ツールを用いて思考の過程を可視化

情報や知識を整理したり、論理的な思考を助ける思考ツール (→本冊子P.32) を提示しています。生徒の考察を補助し、また生徒がどのように考えに至ったのかが可視化できるため評価の際に役立ちます。

3 根拠を示して意思決定

与えられた資料やそれまでの学習内容を整理し、客観的事実と自分の意見を整理して表現する能力を育みます。

チャレンジ公民一覧

第1編	公園づくりについて話し合おう	…P.34-35
第2編第1章	道路の拡張計画について考えよう	…P.78-79
第2編第2章	自分たちのまちの首長を選ぼう	…P.124-125
第3編第2章	社会保障のあり方について考えよう	…P.184-185
第4編第1章	地球温暖化に対する政策について考えよう	…P.218-219



資料を客観的に読み取り、考察を行う

生徒が考えをまとめるにあたって必要な資料を用意しています。



思考の過程では見方・考え方を働かせることができるよう、問いや示唆を設けています。



学びの自己調整をサポート

学習内容に見通しを持ち、自らの学びを調整することができるよう、この学習で達成して欲しい項目を「チェックポイント」として示しました。

社会や世界に向き合い、自らの人生を切り拓く

社会参画をうながす特設ページ



明日に向かって一覧(10テーマ)

持続可能な社会	SDGs から社会の課題を考えよう	…P.16-17	社会参画	まちづくりに参加しよう	…P.122-123
インクルーシブ社会	まちのバリアフリーを探そう	…P.56-57	消費者教育	契約について考えよう	…P.138-139
成年年齢	15歳は「子ども」? それとも「大人」?	…P.72-73	キャリア教育	職業について調べてみよう	…P.160-161
防災・安全	災害に強い暮らしをきずく	…P.102-103	社会保障	年金のしくみについて知ろう	…P.182-183
模擬裁判	裁判員裁判シミュレーション	…P.110-111	持続可能な社会	SDGs から未来の社会を考えよう	…P.216-217

地域社会への参画

生徒自身が住みまちの良いところや課題を考え、よりよいまちづくりのための政策提言を行う学習を紹介しています。



P.122

まちづくりに参加しよう

消費者教育

成年年齢が18歳に引き下げられたことを受け、契約に関するクイズを通してよりよい消費生活を送るにはどうすればよいか、学習することができますようにしています。



P.138

契約について考えよう

キャリア教育

ウェビングマップを用いた自己分析の作業や興味のある職業への就き方の調べ学習を通して、生徒が将来の職業選択について考えられるようにしています。



P.161 職業について調べてみよう

注目! 活動を伴う授業用の教材としても、読み物教材としても扱えます。

身近な地域の抱える課題を考える活動や、生徒が将来について考えることができるような、社会参画をうながすための手掛かりとなるページとして「明日に向かって一私たちの社会参画」を設けました。18歳には成人となり選挙権を持つことを見すえて、主権者として社会のなかで自立し、自らの人生を主体的に切り拓く力を身に着けるための教材を教科書全体を通して多く取り扱っています。

主権者教育に関わる教材の充実

社会に主体的に参加する方法を考えたり社会の課題を探究したりする活動を通して、主権者としての政治参加のあり方について多面的・多角的に考えることができるよう、多数の教材を設けています。



P.184 社会保障のあり方について考えよう

法教育

模擬裁判など、活動を通して法的な考え方を身に付けられるような教材を設けています。



P.110 裁判員裁判シミュレーション



P.86 選挙の投票はどうするの?



P.91 若い世代の政治参加



選挙制度などのしくみの理解に留まらず、主権者として自ら選択・判断する能力を身に着ける。

定まった正解のない問いについて考える活動を通して、公民的分野の学習内容をより深く理解するとともに、主体的に選択・判断する力を身に着けます。他者と協働して活動を行うことで、生徒が自らと異なる意見や対立する意見に触れ、異なる立場の人とともに問題解決について考えることができます。

このような学習を協働的に行うことは、議論する力や説明する力を育むことにもつながります。



